

平成24年10月30日

(一社) 火力原子力発電技術協会
各支部・本部 御中

(一社) 火力原子力発電技術協会
東北支部



『平成24年度 研究発表会および見学会』の開催について (ご案内)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、当支部では平成24年度事業計画の一環として、『研究発表会および見学会』を下記のとおり開催いたします。

多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

1. 研究発表会

(1) 開催日時：平成24年11月19日(月) 13:30~17:00

(2) 会場：新潟東急イン 3F 明石の間

[新潟県新潟市中央区弁天1-2-4]

(3) プログラム

13:30 [開会挨拶]

① 13:35~14:00 東日本大震災による LNG 受入管理状況について

日本海エル・エヌ・ジー(株) 製造部製造課 主任 長谷川 保 氏

② 14:00~14:25 津波を被った低圧ケーブルの早期復旧に向けた取組みについて

東北電力(株) 新仙台火力発電所 技術グループ 対馬 規人 氏

③ 14:25~14:50 石炭ガス化複合発電 (IGCC) 実証プラント研究状況

(株)クリーンコールパワー研究所 実証試験本部 技術部研究開発グループ

小野 朝美 氏

グループリーダー 寺田 斉 氏

14:50~15:05 [休憩]

④ 15:05~15:30 石炭灰の再生資源材の開発及び製造

相馬環境サービス(株) 資源事業部 取締役部長 熊谷 祐一 氏

- ⑤ 15:30～15:55 非定常排水に係る窒素分の低減に関する研究について

東北電力㈱ 秋田火力発電所 発電環境グループ 氏家 俊樹 氏

15:55～16:05 [休憩]

- ⑥ 16:05～16:30 微粉炭燃焼ボイラにおける灰付着低減技術

東北発電工業㈱ 技術開発研究センター 研究開発グループ グループリーダー 長沼 宏 氏

- ⑦ 16:30～16:55 充電部等への表示・養生の明確化による作業点検中の感電防止対策強化について

東北電力㈱ 東新潟火力発電所 コンバインド技術グループ 電気主任 中塚 勇 氏

16:55 [閉会挨拶]

2. 情報交換会

研究発表会終了後、会員の情報交流の場として情報交換会および研究発表会の表彰を予定しておりますので、多数のご参加をお願い致します。

(1) 会 場：新潟東急イン 3F 春日の間

(2) 時 間：17:30～19:00

3. 見学会

(1) 開催日：平成24年11月20日(火)

(2) 行程概要(予定)

8:50	新潟駅南口 集合
9:00	出発
9:40～10:40	日本海エル・エヌ・ジー㈱
10:45～11:45	東北電力㈱東新潟火力発電所
12:30～13:30	昼食 「新潟港 万代島ターミナル内：佐渡汽船食堂」
13:40～14:50	北越紀州製紙㈱ 新潟工場
15:00	新潟駅南口 解散

*気象状況・交通事情等により、時間が前後する場合があります。

4. 申込要領

(1) 参加資格

当協会および（一社）日本機械学会の個人会員または法人会員の方に限ります。

(2) 申込方法

別紙申込書に必要事項をご記入の上、下記宛先まで郵送またはFAXにてお申し込み下さい。

(3) 参加費用（研究発表会当日、受付にて申し受けます。）

研究発表会：無料

情報交換会：3,500円

見学会：1,000円（昼食代）

(4) 申込締切 平成24年11月8日（木）

見学会・情報交換会につきましては、11月12日(月)以降のキャンセルは申し受け致しかねますのでご了承願います。

(5) 申込先

〒980-8550 宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号 東北電力㈱火力部内

(一社)火力原子力発電技術協会 東北支部 森尾宛

TEL.022-799-6131 FAX.022-225-6061

E-mail: morio.tetsuharu.hc@tohoku-epco.co.jp

以上

別紙：『平成24年度 東北支部 研究発表会および見学会』参加申込書

添付資料：1. 発表概要

2. 研究発表会会場・見学会集合場所のご案内

平成24年度研究発表会 発表概要

番号	発表題目	会社名	役職・氏名	発表概要
1	東日本大震災によるLNG受入管理状況について	日本清エル・エヌ・ジー㈱ 製造部製造課	主任 長谷川 保	日本清エル・エヌ・ジー㈱はLNG(液化天然ガス)の受入・貯蔵・供給を行っており、隣接する東北電力㈱東新潟火力発電所等の発電用燃料として使用される他、ハイブリッドやタンクローリー車により、都市ガスとしても使用されている。近年、LNGは世界各地で生産され、LNG密度、発熱量は産地により異なっており、受入れるLNGの多様化が進んでいる。東日本大震災発生後、当初は1年に2~3隻の予定であった軽質LNGの受入が、LNGの需要増加に伴い、月に2~3隻の受入となっており、より精度を上げた支払いの管理を行っている。
2	津波を被った低圧ケーブルの早期復旧に向けた取組みについて	東北電力㈱ 新仙台火力発電所 技術グループ	対馬 規人	平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0、最大震度7の地震に伴う津波により、火力発電所の設備が浸水し大きな被害をもたらした。これにより、東北電力では火力発電所の全体の約3割の電力が供給できなくなり、これら津波被災火力発電所の早期復旧は最優先課題となった。新仙台火力1号機様の早期復旧は、津波により冠水した低圧ケーブルの復旧作業にかかっていた。ケーブルの全数張替えでは、10ヶ月以上かかってしまうことから、再利用を決定した。しかしながら技術的根拠を明確にする必要があった。電力中央研究所を活用し、ケーブルへの海水浸入程度を調査した。その調査結果を踏まえ、我々は、ケーブル種類毎に復旧フローを作成し、作業での復旧作業は、約2,600本を絶縁抵抗測定、導通確認により健全性を確認していた。本取組みにより12月27日に営業運転を再開し、大幅な工程短縮、コスト低減ならびに設備の信頼性確保を実現した。
3	石炭ガス化複合発電 (IGCC) 実証プラント研究状況	㈱クリーン・コンコーラルパワー研究所 実証試験本部 技術部研究開発グループ	小野 朝美 グループリーダー 寺田 斉	石炭ガス化複合発電 (IGCC) は、ガス化炉で石炭をガス化し、コンバインド発電を行う高効率な発電システムである。現在、当社では電力会社と共同で空気を吹き飛ばした安全な粉体の提供を目指した10年間の技術開発を経て、今年7月洗浄システムのプラントを完成させ、「リハブッシュ」と命名して、「流動性向上」と「重量に含まれる重金屬類を除去し、環境に配慮した安全な粉体の提供」を目指した。10年間の向上と「リハブッシュ」を製造販売するに至った。「リハブッシュ」は、石炭灰の特徴である、球形、軽量、微小粒径等の物理特性を生かした流動性を向上させる湿和材として、これまで「ソイルセメント住列壁工法」、「原油モルタル注入工法」、「法面咬付工法」において実証試験を実施しその効果を確認している。
4	石炭灰の再生資源材の開発及び製造	相馬環境サービス㈱ 資源事業部	取締役部長 熊谷 祐一	相馬環境サービス㈱は、石炭灰の再利用に関しセメント原料以外の幅広い分野への用途拡大を目的とし、重量に含まれる重金屬類を除去し、環境に配慮した安全な粉体の提供を目指した。10年間の技術開発を経て、今年7月洗浄システムのプラントを完成させ、「リハブッシュ」と命名して、「流動性向上」と「重量に含まれる重金屬類を除去し、環境に配慮した安全な粉体の提供」を目指した。10年間の向上と「リハブッシュ」を製造販売するに至った。「リハブッシュ」は、石炭灰の特徴である、球形、軽量、微小粒径等の物理特性を生かした流動性を向上させる湿和材として、これまで「ソイルセメント住列壁工法」、「原油モルタル注入工法」、「法面咬付工法」において実証試験を実施しその効果を確認している。
5	非定常排水に係る空素濃度の低減について	東北電力㈱ 秋田火力発電所 発電環境グループ	氏家 俊樹	秋田火力発電所では、定期点検時におけるEP洗浄排水等の空素濃度が高く、定常排水等により希釈して放流しているが、希釈処理に時間を要するため排水処理装置(排水貯槽)が一時的に運用する状況が発生している。そこで、非定常排水中の高濃度空素を短時間で低減させることを目的に「不連続点検空素処理法」および「アンモニアストリッピング法(バブリング方式)」を用いた調査試験を実施した。その結果、両方法とも重油灰等を含む高濃度空素排水について有効であることが確認された。
6	微粉炭燃焼ボイラにおける灰付着低減技術	東北電力工業㈱ 技術開発研究センター 研究開発グループ	グループリーダー 長沼 宏	電算事業用の微粉炭燃焼ボイラでは、燃焼中に発生する灰が伝熱管表面に付着することで、伝熱阻害や定期点検の際に付着した灰の除去に長時間を要するなどの課題を抱えている。特に近年、低品位灰や木質バイオマスの混焼が普及することによって、同ボイラではより灰の付着量が多くなる傾向にある。そこで当社では、伝熱管表面を改善することで灰付着量を低減する溶射技術を開発したので、その研究開発内容について紹介する。
7	充電部等への表示・養生の明確化による作業点検中の感電防止対策強化について	東北電力㈱ 東新潟火力発電所 コンバインド技術グループ	電算主任 中塚 勇	電算設備の点検にあたっては、関係する設備を停電し、充電部がない状態で作業を行うこととしているが、他設備との連絡系統等、やむを得ず充電部近接作業を行う場合もある。これまでも、社内外に「充電中」と表示したり、アクリル板による養生や作業エリアの区画を行ったりしているが、感電事故ゼロの継続を目指し、表示・養生による、誤った作業を積極的に排除するよう対策を実施し、作業安全性の向上を図ったものである。

<研究発表会会場・見学会集合場所のご案内>

1. 研究発表会 [平成24年11月19日(月)]

会 場：新潟東急イン 3F 明石の間

住 所：新潟県新潟市中央区弁天1-2-4

【交通アクセス】

電 車 ●JR 新潟駅より徒歩約1分

自動車 ●北陸道（新潟西 IC）、磐越道（新潟中央 IC）より約20分

2. 見学会 [平成24年11月20日(火)]

集合場所：新潟駅南口 チサンホテルロタリー 8：50（時間厳守でお願いします）

緊急連絡先：高 橋 090-6220-3945

*急病等により見学会をキャンセルする場合は、必ずご連絡ください。



<宿泊について>

●宿泊は、参加者にて会場近隣施設を手配・ご利用願います。

以 上

『平成24年度 東北支部 研究発表会および見学会』参加申込書

会社・事業所名	所属部課 (役職名)	ご氏名	研究発表会 (11/19)	情報交換会 (11/19)	見学会 (11/20)	領収書	備考
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	
			参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	要 不要	

※領収証を分けて発行するなどの要望等がございましたら、その旨備考欄に記載願います。

連絡担当者ご氏名：

ご連絡先：〒

TEL.